

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2772401028		
法人名	医療法人みどり会		
事業所名	グループホームたんぼぼ長尾		
所在地	大阪府枚方市長尾荒阪1丁目2827-8		
自己評価作成日	令和6年8月28日	評価結果市町村受理日	令和6年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	//index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=27
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和6年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が中村病院であるため、訪問看護師を中心に医療的なアドバイスや、内科往診医との連携も密に行っており、医療連携がしっかりと取れています。
 対面式のキッチンを採用している為、キッチンからリビング(共有スペース)全体が見渡せ、入居者の見守りを図ることが出来ます。また、ITによる見守り支援「眠りスキャン」を導入しており、利用者のベッド上での状態をリアルタイムでモニタリングできるため、職員は適切な対応がしやすく、深夜における精神的な負担軽減にもつながっています。
 また、ご家族とはSNSを利用し、普段のご様子報告(写真や動画を交えて)やご相談などを密に行っており、ご家族の負担軽減にもつながっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は、枚方市で病院、介護老人保健施設、有料老人ホームなどを開設している医療法人で、理事長が兼務する社会福祉法人(グループホーム、特別養護老人ホーム、ケアハウスなど)と姉妹法人になっている。当該事業所は、平成12年に老健施設に併設して1ユニットで開設した後、令和3年5月に現場所に移転して4年目で、事業所内は木の温もりを感じる造りになっている。隣接して法人傘下の病院と障がい者福祉施設があり、医師、看護師、PT(理学療法士)のバックアップ体制により利用者の健康管理や運動機能の改善など連携が取られている。利用者への質の高いケアや職員の負荷軽減、家族への細やかな情報提供は、ICT機器などを活用し、加えて「対話」を重視した運営に心掛け、家族から安心と感謝の声が寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「皆が心穏やかに」を自問自答しながら、利用者だけでなく職員同士も対話を実践し、あるべき姿を追及している。	事業所理念を「自分らしく、個性を大切に笑顔のある生活を目指します」と定め、スローガンの「皆が心穏やかに！」と一緒に、玄関入り口、各ユニットの事務室及び相談室に掲示している。理念やスローガンの共有化と日常の言動の振り返りを行うため、常に「職員同士で話し合うこと」を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内病院、施設や利用者ご家族伝いで、ボランティアの紹介もいただきイベントを企画したりと、徐々に地域での交流も増えてきている。	地域情報は、民生委員など運営推進会議での参加メンバーを始め、隣接する事業母体の病院内及び障がい者福祉施設で販売しているパンの購入の際に声掛けをして把握している。移転して間もないが、地域で活動しているアマチュアバンドを事業所に迎えて演奏会を開催するなど、常に地域へ事業所の情報を発信しながら繋がりを拓いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の実践を地域に向けて発信はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設活動状況の報告が中心ではあるが、他施設の情報など収集し話し合いは出来ている為、自施設のサービス向上に活かしている。	会議は、2か月毎(第4木曜日)に開催している。校区の民生委員2名、地域包括支援センター職員2名及び事業所職員が参加し、入居者・職員の状況、行事開催、各種委員会・勉強会の開催、事故報告などを詳細に報告している。	運営推進会議は、外部の方々の助言を得て事業所の運営に反映していくという重要な機会である。構成メンバーの増員(利用者・家族代表、地域代表、知見者など)や、意見・意向を把握する工夫、会議録の家族への送付など、会議運営の充実を図り、より有意義な開催になることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	枚方市 福祉指導監査課とは申請関連の問い合わせ等も含め積極的に連絡を取り、その都度助言を頂いている。	枚方市への各種資料の提出や申請は、直接福祉指導監査課に出向くように心掛けており、事業所の実情などを積極的に伝えと共に福祉関連の動向について把握に努めている。業務継続計画の作成や介護保険制度改正に伴う事業所の対応などについて助言を得て対応するなど、行政との協力関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内「身体拘束適正化委員会」により、勉強会の実施及び利用者ごとの対応・分析を共有し、日々の身体拘束撲滅に取り組んでいる。施錠方法など設備関係には課題も残る。	身体拘束適正化の為の指針及びマニュアルに基づき、身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催している。研修会は年2回チューブを活用して開催しており、身体拘束のないケアに努めている。現在、利用者・家族の同意を得て、夜間帯のみ4点柵を利用している利用者があるが、心療内科の医師と連携し精神的に落ち着いている状況である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、週1回の訪問看護師とのカンファレンスで意見を出し合い、学ぶ機会を設けている。また、個別での対応も適宜行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する学びの機会は設けておらず、活用に至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約・解約・改定の際は、ご家族様に十分な説明を行い、納得していただいた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	対面での面談・打ち合わせが難しくなった分、SNSを利用してご家族との意見交換、コミュニケーションを図り、運営に反映させている。	家族からの意見・要望は、面会時のほか、スマホのアプリを活用して家族に写真や動画で発信する際に把握しており、きめ細やかな返信と意見の反映に努めている。動画で利用者の歩く様子を見た家族から「腰の曲がりが進んでいる」との問いに対して、理学療法士による治療を行い、その後の改善した様子をみて感謝の声が寄せられた例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は常に現場に目を向け、都度職員との対話やミーティングを実施し、意見・提案を現場に反映させている。	職員の意見・要望は、日常の業務の話し合いや、半年毎の個人面談の際に把握に努めている。職員は事業所業務の担当(食材発注、日用品雑貨発注、レクレーション・行事、花の水やりなど)と、各種委員会の担当を担い事業所運営に参加している。法人理事長は毎月事業所へ訪問しており職員と接する機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握し、面談を通じて公平な評価を行うと共に、業務改善などによって残業のない働きやすい環境づくりと、納得のいく休日取得ができるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2024年より計画的に外部研修(認知症介護実践者研修)を受講させており、また施設内でも認知症勉強会など積極的に実施し職員のスキルアップに取り組んでいる。また各種委員会を設置し、役割分担も明確化している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまで行っていなかった同一法人内のグループホーム・病院・ケアプランセンターとは積極的に交流を行っており、アドバイスももらいながら業務の改善、サービスの質向上のために取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族・担当ケアマネより、情報を収集し、職員間での情報の共有に努めている。入居後もスムーズにサービスが提供出来るよう努めている。入居後の不安・要望などを聞き取り、安心して頂けるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の初回相談の時点より、ご家族のご要望に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の中で必要な支援の優先順位を、ご家族と話しながら対応している。また、入居直後はご本人の生活パターンを掴めるまで、24時間行動記録を実施。どのようなサービスが必要なのかを考慮し、ケアプランに反映する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々支援の中で、入居ご本人の状況把握に努めるとともに、想いを傾聴し共感できるように心掛け、支えあえる関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご本人とご家族の関係性について情報を収集し、普段よりご本人との対話を重視し、関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が教えていた書道や華道の元生徒さんが気軽に面会に来られるよう面会制限を設けておらず、定期的に交流は継続できている。	馴染みの人や場所は、入居時や利用者との日々の話し合いで把握に努めている。現役時代の先輩や後輩、習い事の元生徒など、気軽に面会に来訪できるように心掛けている。また、利用者の生活歴を聞くことで馴染みの場所を思い出して貰うようにしており、中国籍の利用者には、動画共有サービスで母国の様子を見ながら話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の個々の性格や相性などを把握した上で、入居者様同士が関り合いを持てる空間作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、積極的な関わりは持ててない。ご家族等にお会いする機会があれば、必要に応じて経過のフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご入居者個々の思いや意向を感じ取り、職員間で情報共有。希望に添えるように努力している。	思いや意向は、入居時や日々の話し合いで把握に努めている。把握が困難な利用者には、顔の表情や動作を始め、過去入力している個人毎の電子カルテや過去に対応した例を紐解き対応している。把握した内容は、利用者個人毎の電子カルテに詳細に入力し、職員間で共有し日々のケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	診療情報提供書やフェイスシートをもとに情報収集に努め、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや個人カルテからの情報共有にて、ご入居者の方々の現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者ご本人の意思を汲み取ることは難しく、職員が中心となって意見交換を実施し、ご家族の意向も組み込んだ上でケアプランを作成している。 また、日々モニタリングを行いプランの充実を行っている。	入居時などに、利用者・家族から生活歴を把握し、医師、看護師、理学療法士から助言を得て、長期1年、短期3ヶ月の介護計画を作成している。モニタリングは毎日行っており、結果は申し送り事項として夜勤者がパソコンに入力し職員が共有している。利用者の状態の変化や家族からの要望があれば、都度介護計画に反映し日々のケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は生活記録に記入、職員間で情報を共有すると共にミーティング等で議論し、ケアの見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内他施設と連携し、日常の見学も含めサービス向上への議論も重ねながらサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を通して、地域との関わり方について情報収集等を行ってきたが、活動には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	運営母体の医療機関との連携はできており、緊急時も即時対応できる体制もありご家族から信頼も得られている。 主治医より月2回の往診も行っていただいている。	利用者・家族の同意を得て全員が、協力医院をかかりつけ医として内科(月2回)、歯科は2週間ごとに1回(6人)受け、他の利用者はその都度受診している。皮膚科・泌尿器科・心療内科等の受診は職員が同行し対応している。週2回の訪問看護師による健康管理や、隣接して協力医が有るため迅速で適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	運営母体医療機関からの訪問看護は週2回あり、職員とは密な情報共有ができていますので、ご利用者が適切な受診や看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	運営母体中村病院への入院中は、地域連携室部門に各入院患者の担当が就き、状況の連絡は密に交わしている。入退院前後の相談・情報交換もできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人・ご家族に対し、「重度化した場合(看取り)指針」としてご説明し、終末期のあり方について同意をいただいています。また、段階を追って話し合いも進めています。	入居時に「重度化した場合(看取り支援)」を説明し同意を得ている。重度化した場合は、主治医から対応方針を説明し、家族に同意を得ている。系列の看護部長を中心に重度化や看取りに関する研修を実施し、その人に相応しい看取りケアに努めたいとしている。直近では3名の看取りを行なった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・水害に対しては、毎年2回訓練を行っている。地域との協力体制も築いている。	年2回の避難・防災訓練を実施している。自衛消防組織表を作成し、職員間で共有して近隣に住む職員も多く、すぐに駆けつけることが出来る体制を整えている。自家発電設備を備えており、近隣の法人グループとの協力体制を整備している。備蓄品は水・お粥など3日分を常備している。今後作成したBCP(事業継続計画)の実効性を高めるように取り組む予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに留意し、ミーティングを通じて接遇マナー、プライバシーについて話し合いを行っている。 また、接遇・サービス向上委員会を設置し、今後のサービス向上のための取り組みも継続している。	プライバシー保護の取り組みに関する研修を全員参加で実施している。プライバシー確保の例として、入室時は失礼します、排泄時は目線合わせて声掛けをし、入浴時は羞恥心に配慮してタオルをかけて対応している。不適切な発言があった場合は、その都度注意し職員間で共有している。個人ファイルなどの重要書類は、鍵付きのロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご入居者の思い・希望が出しやすいよう対話し働きかけを行っているが、自己主張が出来ない方に関しての働きかけは不十分である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者の状況に応じて、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服はレンタルにより制限はあるが、髪の整えは職員も気配りしながら自身にて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事は給食センターを利用しているため全員同一となるが、個人の好みに合わせて副食物などを用意している。 月に1～2度の行事ではご入居者と職員と一緒に作ることもある。	業者からの献立とレトルト食品(湯煎)の組み合わせで提供している。ご飯と汁物は職員が準備している。時々近くの焼きたてパンの朝食の時もある。利用者は、お盆拭きやおしぼりの準備など個々の能力に応じて職員と一緒に準備している。食事レクレーションとしてお寿司・お好み焼パーティーを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食一人ひとりの摂取量を記録し把握している。水分量が少ない方に関しては個別で水分摂取量を記録、水分摂取の声掛け等の工夫を行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの口腔の状態に合わせてケアの実施に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録し、入居者様個々の排泄パターンを把握している。必要なお入居者にはトイレ誘導を行っている。	個々の排泄表を参考に定期的に声掛けをしてトイレでの排泄支援をしている。夜間は3時間ごと見回り、「眠りスキャン」を導入しモニターの確認と、個々に応じた声掛けとおむつ交換を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて便秘薬の調整を行っている。水分摂取や余暇活動での運動(歩行、体操など)にて便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、ご本人の体調や状況に応じて、曜日変更、または清拭での対応を行っている。	入浴は、週2回となっている。一人ひとり湯の交換をし重度の利用者へは、シャワーキャリーを使い全員がゆっくりとお湯に浸かって入浴ができる。好みのシャンプー・リンスを使い、乾燥肌対策のために全員が保湿剤を使用している。入浴を楽しんでもらえるようゆず湯・菖蒲湯などによる季節感を取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者の生活状況を把握した上で、日中に臥床時間を設けている。また、夜間帯に関しても気持ちよく安心して眠れるように、室温や明るさを配慮して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や、服薬量の変化時にはご本人の状態を注視し、状況に応じて医療との連携も行っている。 ご入居者一人ひとりの薬情報はカルテに綴じ、職員が閲覧出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限りご入居者の思い・希望が出しやすいよう対話し働きかけを行っているが、自己主張が出来ない方に関しての働きかけは不十分である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	環境的に戸外に出かけられるのは困難であるが、ご家族と一緒に軽食に出かけられるように支援している。	コロナ禍の影響もあり、日常的な外出は難しい状況にあるが、リビングからベランダに出られる庭に咲く花の水やりや、テーブルと椅子を利用して、日光浴や外気浴を兼ねて気分転換を図っている。家族同行で好みのラーメンを食べに行ったり、近くのパン屋で一緒にお茶を飲んだり一緒に外出出来るよう支援している。	コロナ禍の影響が続き、外出支援を自粛しているが、外出支援の内容(初詣、花見、紅葉、馴染みの場所等)や、体制(法人グループ内の応援やボランティア活用など)を職員間で話し合い、年間を通した外出支援ができる体制の構築を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者ご家族様よりお預かりした個々のお金は代表者が管理しており、各ご利用者ごと発生の都度支出し、ご家族に報告し管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族とは常時SNSを利用した状況報告を行っており、定期的にご利用者とご家族のビデオ通話、電話が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの清掃は行き届いており、心地よく過ごせるよう保っている。 ベランダにはプランターを設置し、ご利用者も花に水やりができるよう環境を整えている。	共有空間は、、リビング・廊下が広々として明るく、木の温もりがあり加湿器がおかれ落ち着いた雰囲気的空間となっている。廊下が広く車椅子での移動もスムーズで歩行訓練にも適している。対面式のキッチンを採用しているのでキッチンから入居者の見守りができている。壁面には、折り紙で作ったハロウインの飾りや老人会などのイベント写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段の関わり方や性格などを考慮して自席の配置を行っている。 また都度テレビの前に移動したりと、ご利用者の状況に応じて変化させている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、ご本人の好み、ご家族の判断で自由に持ち込んでいただき、心地よく過ごしていただけるよう配慮している。	ベッド・タンスが設けられ、使い慣れたテレビ・イス家族の写真・仏壇など持ち込み、その人らしい過ごしやすい居室となっている。転倒防止対策として低床ベッドを使用している利用者もいる。清掃は職員がして清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内ではベットの位置や手すり、車いすの位置など安全性を考えて配置している。 トイレなど共有スペースは自立行動を見守りしている。		